



▲会下ノ谷遺跡の遠景



灰釉陶器の広口瓶▶

History

キラリを再発見

比木の有力集落と 想定される遺跡

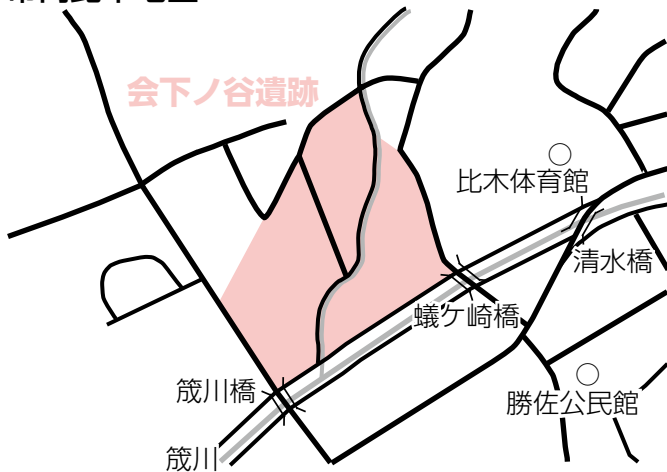
比木地区にある会下ノ谷公民館南側一帯の水田地帯に会下ノ谷遺跡が立地しています。

郷土史研究家の小野芳郎氏はこの地帯で遺物を採集しています。昭和44年頃に箴川の改修工事が行われているため、この頃に発見された遺跡だと考えられます。

採集された遺物は平安時代の灰釉陶器の広口瓶で、高さが16.1センチです。これは11世紀頃に作られたものと推定され、この種の灰釉陶器の広口瓶が集落跡から発見される例はそれほど多くありません。

また、発掘調査を実施していないためははっきりとは分かりませんが、会下ノ谷遺跡は比木地区の中心部を占めていることから、平安時代の比木地区の有力な集落だったと想定されます。

市内比木地区



埋蔵文化財包蔵地 会下ノ谷遺跡

照 会 社会教育課 ☎0548⑧1129

Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所

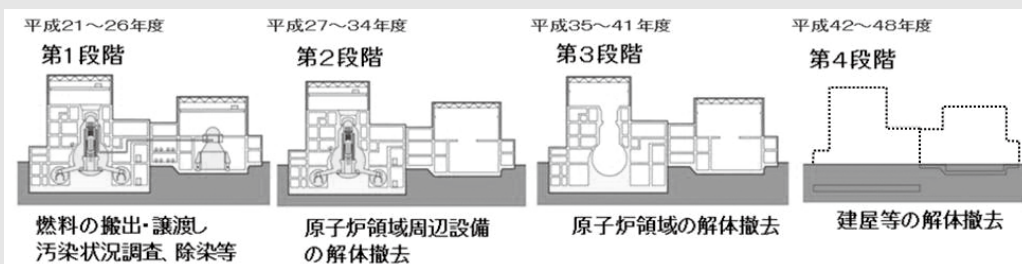
1・2号機廃止措置計画の

変更認可申請について

中部電力では、平成21年度から開始した廃止措置計画の第1段階において、燃料搬出や系統除染、汚染状況調査、屋外設備の解体撤去などを進めてきましたが、平成27年3月16日に「浜岡原子力発電所1号原子炉及び2号原子炉廃止措置計画」(以下「廃止措置計画」という)の第2段階である原子炉領域周辺設備の解体撤去に移行するため、変更認可申請書を原子力規制委員会に提出しました。

第2段階では、排気筒や建屋内の原子炉領域周辺設備の解体撤去に着手するとともに、引き続き原子炉圧力容器内の除染および汚染状況調査などを実施していく予定とのことです。

なお、中部電力は、解体撤去に伴い発生する低レベル放射性廃棄物の廃棄先は現時点では未定であることから、第2段階では、放射性廃棄物として扱う必要がなくなるものが主体となる設備から優先して解体し、廃棄物については、当面、1・2号機の建屋内などに安全に保管・管理していくとのことです。



▲廃止措置計画全体スケジュール